



2022年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年8月12日

上場会社名 株式会社フォーサイド 上場取引所 東
 コード番号 2330 URL <https://www.forside.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 根津 孝規
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 飯田 潔 TEL 03 (6262) 1056
 四半期報告書提出予定日 2022年8月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2022年12月期第2四半期の連結業績 (2022年1月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第2四半期	2,349	△4.2	△59	—	△54	—	△68	—
2021年12月期第2四半期	2,452	29.8	141	—	142	—	164	—

(注) 包括利益 2022年12月期第2四半期 △68百万円 (—%) 2021年12月期第2四半期 160百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第2四半期	△2.10	—
2021年12月期第2四半期	5.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年12月期第2四半期	4,243	1,098	25.8	33.69
2021年12月期	4,426	1,166	26.3	35.76

(参考) 自己資本 2022年12月期第2四半期 1,096百万円 2021年12月期 1,163百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	0.00	—	—	—
2022年12月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注) 2022年12月期の期末配当は今後の業績見通し等を踏まえて判断することにしていないため未定であります。

3. 2022年12月期の連結業績予想 (2022年1月1日～2022年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,017	2.5	133	△28.9	125	△31.5	107	24.6	3.29

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料P. 10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年12月期2Q	32,557,704株	2021年12月期	32,557,704株
2022年12月期2Q	18,574株	2021年12月期	18,064株
2022年12月期2Q	32,539,422株	2021年12月期2Q	32,540,711株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束するものではありません。実際の業績等は今後の様々な要因によって予想と大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、まん延防止等重点措置が3月に全国で解除となりましたが、6月以降は新規感染者数が増加傾向にあり、感染拡大の第7波が顕著になってきております。また、ロシア・ウクライナ情勢による資源価格の高騰や円安の加速によりインフレが進行しており、景気後退が不安視される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの事業領域であるアミューズメント市場におきましては、20年ぶりにプライズゲームの景品限度額が引き上げられました。この改正により、今まで以上に高品質な景品を提供することが可能となり、ユーザーの更なる来店促進につながることを期待されています。

住宅市場におきましては、2022年6月の新設住宅着工戸数が前年同月比2.2%の減少となり、前年同月比で2ヶ月連続の減少となりました。また、貸家着工戸数においては、前年同月比で16ヶ月連続の増加となりましたが、建築資材の価格高騰が続いており、引き続き注視が必要です。

このような経済状況の中、当社グループにおいては、主力事業であるプライズ事業・不動産関連事業を中心に営業収益の拡大を図ってまいりました。また、出版事業において制作費の抑制に努め、全社での経費の見直しや削減に取り組むことで、事業収益の改善を図ってまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の営業収益は2,349,764千円（前年同期比4.2%減）、営業損失は59,239千円（前年同期は営業利益141,541千円）、経常損失は54,893千円（前年同期は経常利益142,839千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は68,262千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益164,913千円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

①プライズ事業

プライズ事業につきましては、株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用景品の企画・製作・販売を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、前年より人気のあったキャラクターグッズの需要が減少したことにくわえ、景品の製作や仕入れにおいて、為替の急激な円安や資源価格の高騰による輸送費の増加等が大きく影響し、売上高、セグメント利益ともに、大幅に減少いたしました。

以上の結果、売上高は1,149,935千円（前年同期比21.8%減）、セグメント利益は39,065千円（前年同期比70.0%減）となりました。

②不動産関連事業

不動産関連事業につきましては、日本賃貸住宅保証機構株式会社が家賃保証業務及び物件管理業務等を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、顧客（不動産会社・賃貸人・賃借人）に寄り添った丁寧な対応に努めてまいりました。営業面においては、新規取引店の獲得や既存取引先の再稼働等、営業強化・拡大に向けての取り組みを行いました。また、与信審査及び債権管理業務の効率化にも取り組むなど、状況に応じた顧客管理に努めてまいりましたが、滞納者が増加したことに伴い、貸倒引当金繰入額が増加しております。

以上の結果、売上高は690,703千円（前年同期比1.0%減）、セグメント利益は53,398千円（前年同期比32.6%減）となりました。

③投資銀行事業

投資銀行事業につきましては、フォーサイドフィナンシャルサービス株式会社がM&Aのアドバイザー業務を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、期初よりの遅れを挽回するにはいたらず、引き続き案件の成約に至らなかったことから、セグメント損失が拡大いたしました。

以上の結果、売上高はなく（前年同期は53,454千円）、セグメント損失は58,541千円（前年同期はセグメント利益20,089千円）となりました。

④コンテンツ事業

コンテンツ事業につきましては、株式会社ポップティーンが電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、プロモーション費用を抑制する中で、広告効果の最大化に努め、新規顧客の獲得を行ってまいりました。また、既存ユーザーに対しては、魅力あるコンテンツの拡充を図ることで、アクティ

ブーザー数の増加を目指してまいりました。

以上の結果、売上高は72,952千円（前年同期比30.4%減）、セグメント利益は4,662千円（前年同期比50.8%増）となりました。

⑤イベント事業

イベント事業につきましては、株式会社ブレイクが各地の大型商業施設の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を中心に行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、4月より「PSYCHOVISION hide MUSEUM Since 2000」を名古屋で開催し、想定よりも多くのご来場をいただきました。その他のイベントにおいても、人数制限の緩和等により、来場者数は堅調に推移いたしました。また、その他OEM物販が好調に推移したことにより、売上高、セグメント利益ともに、前年の実績を大幅に上回りました。

以上の結果、売上高は267,277千円（前年同期比360.4%増）、セグメント利益は33,994千円（前年同期はセグメント損失13,045千円）となりました。

⑥マスターライセンス事業

マスターライセンス事業につきましては、主に株式会社マーベラスアークが音楽関連事業を行い、フォーサイドメディア株式会社及び株式会社ポップティーンが出版事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、3月に開催したワンマンライブを皮切りに、大阪や名古屋でもライブを積極的に行い、音楽活動を展開してまいりました。

出版事業においては、製作費用を大幅に見直し、原価コントロールを徹底する一方で、読者のニーズに沿った付録を展開することで、事業収益の拡大を目指してまいりました。また、デジタルネイティブ世代の新規読者層の拡大を目指し、YouTubeやTikTok等のSNSを使った様々な企画を展開するとともに、誌面売上に依存しない事業モデルの確立を目指してまいりました。

以上の結果、売上高は165,875千円（前年同期比154.7%増）、セグメント損失は67,547千円（前年同期はセグメント損失16,449千円）となりました。

⑦その他の事業

その他の事業においては、主にフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社が金融事業を行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、貸付金の回収に努めたほか、株式会社フォーサイドでコンサルティング業務を受託することができました。

以上の結果、売上高は3,020千円（前年同期比13.0%減）、セグメント利益は1,262千円（前年同期比32.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて182,615千円減少し4,243,957千円となりました。主な要因と致しましては、売上債権の減少95,093千円、建物の減少28,590千円及び土地の減少62,838千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて114,514千円減少し3,145,122千円となりました。主な要因と致しましては、未払法人税等の減少108,968千円、長期借入金の減少73,567千円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて68,100千円減少し1,098,835千円となりました。主な要因と致しましては、親会社株主に帰属する四半期純損失68,262千円等を計上したこと等によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて65,156千円減少し、1,198,747千円となりました。当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況及びこれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、69,041千円の支出（前年同期は77,661千円の収入）となりました。主な要因と致しましては、税金等調整前四半期純損失55,363千円を計上したこと及び未払法人税等（外形標準課税）が110,355千円減少したこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、99,181千円の収入（前年同期は168,151千円の支出）となりました。主な要因と致しましては、有形固定資産の売却による収入80,184千円及び投資有価証券の売却による収入15,591千円を計上したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、99,173千円の支出（前年同期は159,822千円の収入）となりました。主な要因と致しましては、短期借入金の純減少額35,000千円及び長期借入金の返済による支出83,746千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年12月期の連結業績予想につきましては、「2021年12月期決算短信」における通期の業績予測から変更しておりません。

なお、本資料に記載されている業績予測等の将来に関する記述は、当社が本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績等は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,263,904	1,198,747
受取手形及び売掛金	686,051	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	590,957
商品	246,680	268,638
短期貸付金	15,988	15,790
収納代行未収金	1,133,693	1,203,565
代位弁済立替金	374,897	396,432
その他	120,242	113,802
貸倒引当金	△348,337	△363,726
流動資産合計	3,493,121	3,424,208
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	120,545	91,954
土地	153,155	90,317
その他（純額）	7,917	6,134
有形固定資産合計	281,618	188,406
無形固定資産		
ソフトウェア	27,588	22,715
のれん	20,185	17,814
その他	18	18
無形固定資産合計	47,791	40,548
投資その他の資産		
投資有価証券	186,729	178,719
長期貸付金	393,287	387,581
敷金	41,545	41,448
長期未収入金	30,500	30,500
その他	16,018	16,579
貸倒引当金	△64,038	△64,033
投資その他の資産合計	604,042	590,794
固定資産合計	933,452	819,749
資産合計	4,426,573	4,243,957

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	255,201	201,364
未払金	1,208,864	1,259,790
未払法人税等	123,167	14,199
前受収益	418,880	498,726
短期借入金	225,000	190,000
1年内返済予定の長期借入金	76,790	87,624
債務保証損失引当金	89,920	92,820
賞与引当金	—	15,080
その他	324,687	312,366
流動負債合計	2,722,511	2,671,971
固定負債		
長期借入金	529,260	455,692
利息返還損失引当金	7,365	6,958
その他	500	10,500
固定負債合計	537,125	473,151
負債合計	3,259,637	3,145,122
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	86,201	86,193
利益剰余金	979,632	911,369
自己株式	△3,701	△3,736
株主資本合計	1,162,131	1,093,826
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	1,340	2,459
その他の包括利益累計額合計	1,340	2,459
新株予約権	100	100
非支配株主持分	3,364	2,449
純資産合計	1,166,936	1,098,835
負債純資産合計	4,426,573	4,243,957

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
営業収益		
売上高	1,754,316	1,658,865
その他の営業収益	698,220	690,899
営業収益合計	2,452,536	2,349,764
営業原価		
売上原価	1,297,778	1,287,288
その他の原価	187,114	192,715
営業原価合計	1,484,893	1,480,003
売上総利益	967,643	869,761
販売費及び一般管理費	826,102	929,000
営業利益又は営業損失(△)	141,541	△59,239
営業外収益		
受取利息	3,984	4,047
受取保険金	3,156	—
為替差益	1,477	2,361
補助金収入	561	5,900
その他	1,348	616
営業外収益合計	10,529	12,924
営業外費用		
支払利息	2,804	7,495
貸倒引当金繰入額	5,939	839
その他	486	243
営業外費用合計	9,230	8,578
経常利益又は経常損失(△)	142,839	△54,893
特別利益		
投資有価証券売却益	—	7,581
事業譲渡益	15,538	—
新株予約権戻入益	16,000	—
特別利益合計	31,538	7,581
特別損失		
固定資産売却損	—	8,051
固定資産除却損	367	—
特別損失合計	367	8,051
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	174,011	△55,363
法人税、住民税及び事業税	9,098	13,814
法人税等合計	9,098	13,814
四半期純利益又は四半期純損失(△)	164,913	△69,177
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△915
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	164,913	△68,262

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	164,913	△69,177
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△4,284	—
為替換算調整勘定	△619	1,119
その他の包括利益合計	△4,904	1,119
四半期包括利益	160,009	△68,058
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	160,009	△67,143
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△915

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年1月1日 至 2021年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	174,011	△55,363
減価償却費	16,797	12,449
のれん償却額	370	2,370
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△7,808	15,385
受取利息及び受取配当金	△3,998	△4,066
支払利息	2,804	7,495
為替差損益(△は益)	△1,477	△2,361
新株予約権戻入益	△16,000	—
事業譲渡損益(△は益)	△15,538	—
投資有価証券売却及び評価損益(△は益)	—	△7,581
固定資産売却損益(△は益)	—	8,051
固定資産除却損	367	—
売上債権の増減額(△は増加)	△97,401	97,167
棚卸資産の増減額(△は増加)	△103,070	△21,892
仕入債務の増減額(△は減少)	106,590	△55,218
賞与引当金の増減額(△は減少)	18,000	15,080
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	2,670	2,900
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	330	△406
立替金の増減額(△は増加)	21,429	△22,678
前受金の増減額(△は減少)	30,940	82,396
前渡金の増減額(△は増加)	5,396	△1,572
未収入金の増減額(△は増加)	△45,286	△64,606
未払金の増減額(△は減少)	51,232	50,760
未払費用の増減額(△は減少)	△5,107	△10,307
未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少)	△29,850	△110,355
その他	△25,243	△561
小計	80,157	△62,914
利息及び配当金の受取額	2,901	688
利息の支払額	△3,155	△10,295
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△2,242	3,480
営業活動によるキャッシュ・フロー	77,661	△69,041
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△6,825	△221
有形固定資産の売却による収入	—	80,184
無形固定資産の取得による支出	△650	△2,380
事業譲渡による収入	15,909	—
子会社株式の取得による支出	△10,000	—
投資有価証券の取得による支出	△170,000	—
投資有価証券の売却による収入	—	15,591
敷金の差入による支出	△100	—
敷金の回収による収入	4,438	102
貸付けによる支出	△8,000	—
貸付金の回収による収入	7,076	5,903
投資活動によるキャッシュ・フロー	△168,151	99,181
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△115	△48
自己株式の処分による収入	9	6
短期借入金の純増減額(△は減少)	185,000	△35,000
長期借入れによる収入	—	19,615
長期借入金の返済による支出	△25,071	△83,746
財務活動によるキャッシュ・フロー	159,822	△99,173
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,274	3,877
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	72,607	△65,156
現金及び現金同等物の期首残高	1,046,859	1,263,904
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△100	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,119,367	1,198,747

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。

当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りについて)

前連結会計年度の決算短信の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年1月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						その他 (注) 1
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライツ	
売上高							
外部顧客への売上高	1,469,753	697,834	53,454	104,835	58,053	65,134	3,470
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	300	—	—	—
計	1,469,753	697,834	53,454	105,135	58,053	65,134	3,470
セグメント利益又は セグメント損失(△)	130,397	79,236	20,089	3,092	△13,045	△16,449	1,878

(単位：千円)

	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高			
外部顧客への売上高	2,452,536	—	2,452,536
セグメント間の内部 売上高又は振替高	300	△300	—
計	2,452,836	△300	2,452,536
セグメント利益又は セグメント損失(△)	205,200	△63,659	141,541

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△63,659千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項ありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

	報告セグメント						その他 (注) 1
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライセンス	
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	1,149,935	653,274	—	72,952	267,277	165,875	3,020
その他の収益(注) 4	—	37,428	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	1,149,935	690,703	—	72,952	267,277	165,875	3,020
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	300	—	184	—
計	1,149,935	690,703	—	73,252	267,277	166,059	3,020
セグメント利益又は セグメント損失(△)	39,065	53,398	△58,541	4,662	33,994	△67,547	1,262

(単位:千円)

	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高			
顧客との契約から生 じる収益	2,312,336	—	2,312,336
その他の収益(注) 4	37,428	—	37,428
外部顧客への売上高	2,349,764	—	2,349,764
セグメント間の内部 売上高又は振替高	484	△484	—
計	2,350,248	△484	2,349,764
セグメント利益又は セグメント損失(△)	6,295	△65,534	△59,239

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△65,534千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

4. その他の収益は、不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項ありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。